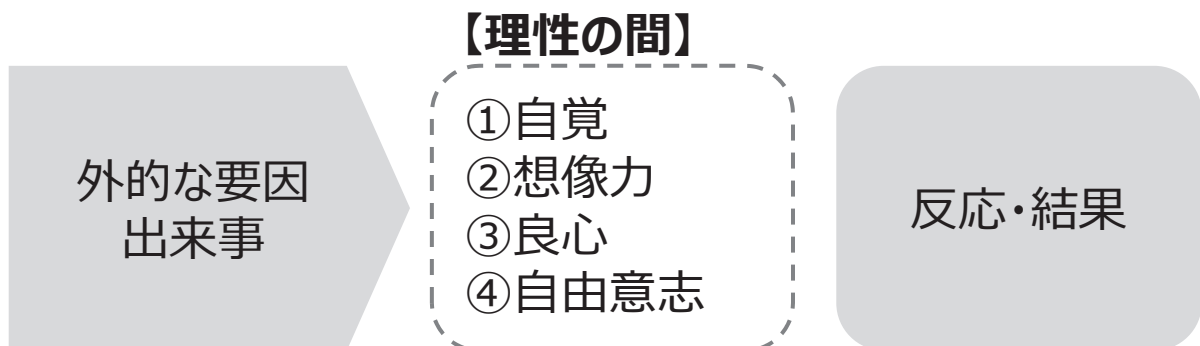


「主体性」は、社会人基礎力の入り口であり出口である。

- 「主体性」のある人、「主体性」を発揮する人の定義
「人間として、自分の人生に起こりうる全ての場面において、自分の責任で判断を選択し、自らその責任を取れる人」
- 「責任」=responsibility=response（反応）+ability（能力）
- 「責任」=「自分の反応を選択することができる能力」
- 自分の身に何が起こるかではなく、どのように反応するかが重要であるという考え方が基本となっています。「遺伝子のせい」、「過去の経験のせい」、「周囲の環境のせい」という考え方の人を「反応性」のある人、「反応性」を発揮する人と定義します。「反応性」の典型は、「動物」です。
- 外的な出来事・刺激に即反応するのが「反応性」のある人、「主体性」のある人は、外的な出来事・外的な刺激に、即反応せず、「**理性の間**」を置き、反応できる人。「理性の間」の中身は4つの要素で構成される。
 - ①自覚、②想像力、③良心、④自由意志の4つです。
- ①**自覚**：自分の立場・状態・能力を客観的に見つめることができる能力
- ②**想像力**：現在の目の前の状況を超えて、頭の中で新しい可能性を想像できる能力。かつ、想像したイメージを目指そうとする能力。
- ③**良心**：正しい道德・哲学・思想に基づき、善と悪を区別し、今の思いや行動が、人間として正しいか否かを判断する能力。
- ④**自由意志**：外部の環境や価値観の激変などの、外的な要因・刺激に流されたり、縛られたりすることなしに、自覚や想像力、良心に基づいて考え方や行動・言動を選択できる能力



「主体性」の心臓部、「4大理性」チェックポイント

- ・全くそうは思わない：0点
- ・どちらともいえない：2点
- ・検討する余地はある：1点
- ・どちらともいえない：2点
- ・そのように努力している：3点
- ・いつもそうしている：4点

①自覚		点数
1	人の意見や助言・指導を聞いて、そこから学ぶことができる。	
2	自分の物の見方と考え方や感情を客観的に検証し、必要と思えば、それを変えることができる。	
3	自分自信が守るべき価値観と、育ちや周りの人たちから与えられる影響の区別をすることができる。	
4	自分の物の見方と考え方・行動や態度が、実際の結果にそのように影響を与えているかを常に意識している。	
②想像力		
1	困難に直面したとき、第三者の助言を求め、何としても解決策を見出そうとする。	
2	いざ、行動を起こす時には、事前にシミュレーションを行い、計画する。	
3	自分の目の前の現状が如何に困難な状況でも、明るい将来を想像できる。	
4	自分の目標を前に、イメージトレーニングし、成功した自分の姿を想像できる。	
③良心		
1	人がどう評価するかより、何が人間として正しい生き方かを自分に問い、行動できる。	
2	「今、〇〇をすべきだ。」「今、〇〇をしたいが、すべきではない」と心の中で、悪と善の戦いの葛藤を感じる事ができる。	
3	自分の心の中で邪な事を思ってしまったても、社会一般の規範と考え方との違いを意識できる。	
4	人権・誠実さ、優しさ、思いやりの大切さ、利他の心など普遍的に人間としての正しい生き方・法則を深く意識している。	
④自由意志		
1	気分や感情に左右されず、自分との約束や自らの決意を守る事ができる。	
2	自分に対しての約束や他人との約束を厳守する力を持っている。	
3	生活の中で自分にとって意義のある目標を立てて、確実にそれを実行する力がある。	
4	流れに逆らったり、空気を打破し、自分の決意や心の指令に基づいて、行動をする力がある。	

- ・0～28点 4大理性が完全に隠れてしまっています。
- ・29～48点 4大理性を普通に活用しています。さらにレベルを高める事をお勧めします
- ・49～64点 素晴らしい最高のレベルです。

社会人基礎力養成に役立つ書籍を紹介する 「社会人基礎力養成本棚」〈平成28年度の推薦図書〉

- 「完訳 7つの習慣 人格主義の回復」スティーブン・R・コヴィー（著）
フランクリン・コヴィー・ジャパン（翻訳）ハードカバー：560ページ/出版社：キングベアー出版
（2013/8/30）/ISBN-10：4863940246/ISBN-13：978-4863940246/発売日：2013/8/30
- 『7つの習慣』(The 7 Habits of Highly Effective People)は、スティーブン・R・コヴィーによって書かれ1996年に出版された書籍。原著の初版は1989年。ジャンルはビジネス書とされる場合が多い。しかし、その内容は、成功哲学、人生哲学、自助努力といった人間の生活を広く取り扱っており、人文・思想、倫理・道徳、人生論・教訓、自己啓発などにも分類される。原著は英語。訳はジェームス・スキナーと川西茂による。44ヶ国語に翻訳、全世界2,000万部、日本でも累計130万部を売り上げベストセラーとなった。著者は本作を執筆するにあたり、アメリカ建国以来発行された約200年分の「成功」にかかわる文献を調査した。その結果、直近の50年分の文献ではコミュニケーションスキルやポジティブシンキングなど、上辺だけの応急処置的なテクニックの解説に終始するものがほとんどであったのに対し、初めの150年間の文献は誠意、謙虚、勇気、正義、忍耐、勤勉、節制、黄金律といった、不変の「原則」に基づく優れた人格の養成を重視していたことを発見する。著者は前者のパラダイムを「個性主義」、後者を「人格主義」と呼び、「人格主義」に基づいた成功への法則を抽出して、それを「7つの習慣」として提示している。これらは単独で独立して存在するものでなく、それぞれが深く関連しているとされる。7つの習慣は全体が大きく3つに分類されている。

I. 私的成功

- 第一の習慣：主体性を発揮する
- 第二の習慣：目的を持って始める
- 第三の習慣：重要事項を優先する

II. 公的成功

- 第四の習慣：Win-Winを考える
- 第五の習慣：理解してから理解される
- 第六の習慣：相乗効果を発揮する

III. 再新再生

- 第七の習慣：刃を砥ぐこれらが”習慣”とされている理由は、本書の中で引用されているアリストテレスの言葉によって示されている。
- 「人格は繰り返す行動の総計である。それゆえに優秀さは単発的な行動にあらず、習慣である。」



アンケート調査の概要

学生アンケート調査

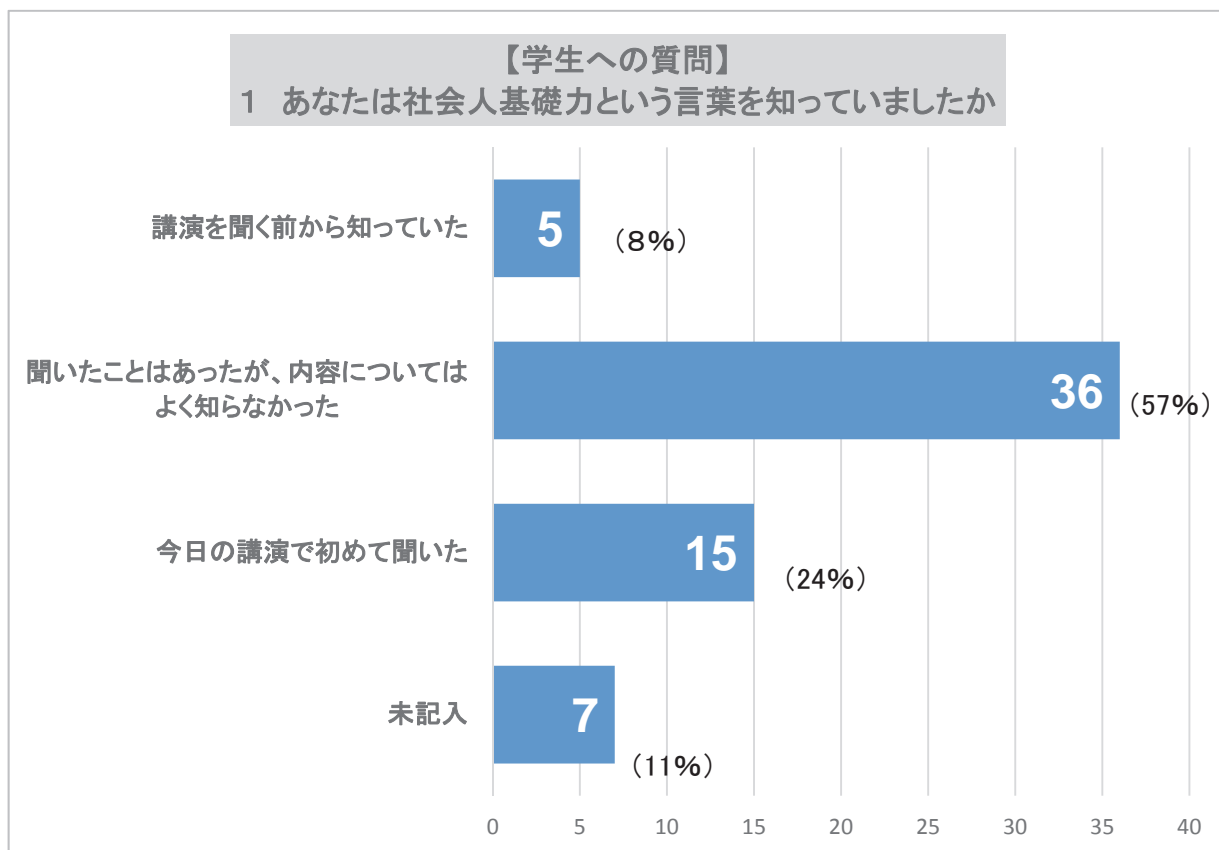
- ・調査方法: 緑丘企業セミナー開催時の学生直接記入による調査
- ・調査日: 平成27年9月30日
- ・調査対象: 国立大学法人小樽商科大学学部1、3～4年生
- ・有効回答: 63件
- ・実施主体: 公益社団法人緑丘会

※平成27年9月30日に実施

企業へのアンケート調査

- ・調査方法: 緑丘企業セミナー参加企業人事部へのアンケート調査
- ・調査期間: 平成27年12月15日～平成28年3月31日
- ・調査対象: 緑丘企業セミナー参加確定企業
- ・有効回答: 36件
- ・実施主体: 公益社団法人緑丘会

1. 大学生の「社会人基礎力」に関する認知度



有効回答件63件

単位:人

大学生63人の中で、15人(24%)が、「社会人基礎力」という言葉を「初めて聞いた」と回答し、36人(57%)が「内容は知らなかった」と回答しており、合わせて81%の学生が「社会人基礎力」という概念を認識していないことが判る。(昨年の調査では「初めて聞いた」・「内容は知らなかった」が合わせて76%だった。)